

【学会発表等】(過去2年間抜粋)

◆2015年度

- ・第50回日本理学療法学会
『入院前の身体活動量は自宅退院を控える高齢患者の転倒恐怖感に強い影響を与える』
『大腿骨頸部骨折後に人工骨頭置換術を施行した患者の早期方向性決定の検討』
『間接的な家屋評価における転倒予防の有効性に関する前向き介入研究』
- ・第27回大阪府理学療法学会
『閉塞性肺疾患を既往にもつ右大腿骨頸部骨折患者の治療経験』
- ・第9回徳洲会リハビリテーション部会関西大阪ブロック学会
『大腿骨近位部骨折患者における早期方向性決定因子の検討 ～排泄動作に着目して～』
- ・第12回日本神経理学療法学会
『脊髄性運動失調に対する足趾機能・感覚フィードバックに着目した運動療法の即時効果および長期効果』
- ・第6回中河内ブロック新人症例発表会
『関節リウマチにより左足趾関節形成術を施行した一症例 ～手指変形に対する歩行補助具への工夫～』
『脳出血により運動麻痺を呈した症例の歩行能力の予後を踏まえた転機先の検討』

◆2014年度

- ・第49回日本理学療法学会
『急性期病院に勤務する理学療法士の自宅退院患者に対する転倒予防指導』
『自宅退院を控える入院高齢者の転倒恐怖感と全般性自己効力感尺度の関連』
- ・第8回徳洲会リハビリテーション部会関西大阪ブロック学会
『大腿骨頸部骨折後に人工骨頭置換術を施行した患者の術前の栄養状態と早期離床の関連性』
『NSTにおけるSTの課題』
- ・第1回日本転倒予防学会
『家屋評価を行う際の理学療法士の視点 ～アンケートによる実態調査より～』
- ・第34回近畿作業療法学会
『CVA 急性期患者への食事の自立に向けた介入の意義 ～病棟職員への意識向上に向けた連携の取り組み～』
- ・第5回中河内ブロック新人症例発表会
『閉塞性肺疾患を既往にもつ右大腿骨頸部骨折患者の治療経験 ～急性期理学療法における早期離床についての考察～』
『徒手療法により、疼痛が改善した腰椎椎間板ヘルニア患者の治療経験 ～疼痛に着目して～』
『脳卒中急性期において座位訓練行わず静的座位が自立に至った1症例 ～脳卒中急性期における座位の再考～』
- ・第54回近畿理学療法学会
『腿骨頸部骨折後に人工骨頭置換術を施行した患者の早期方向性決定の検討』
- ・第29回大阪作業療法学会
『橈骨遠位端骨折術後患者の早期運動療法の効果について』
- ・第4回日本リハビリテーション栄養研究会

- 『急性期脳外科病棟における作業療法士の食事場面への介入』
- 大阪府理学療法士協会中河内ブロック研修会講師派遣
- 『家屋評価の Evidence とその活用』